



資料 1

# 水道料金部会の検討状況について

令和 4 年11月22日開催

第 4 回 神奈川県営水道事業審議会資料

# 1 検討の視点

令和4年3月に開催された「第1回神奈川県営水道事業審議会」における今後の審議の進め方の議論において、水道料金のあり方については、専門的技術的な議論を踏まえて進める必要があり、短い期間で効率的に議論を進めるために「水道料金部会」を設置することとした。

これを受け、令和4年5月から10月に渡り計4回の部会を開催し、県営水道の現状を踏まえながら、あるべき水道料金体系について様々な項目について議論を進めている。

議論の方向性としては、第1回水道料金部会において、前身である神奈川県営水道懇話会でとりまとめた意見書を踏まえたうえで議論を進めていくこととした。

## 2 主な審議項目

### ◆ 県営水道料金の現状について

県営水道の水需要と料金収入の推移や、全国の水道事業者において採用している料金体系（用途別・口径別、基本水量、逦増度）などを踏まえ、今後の水道料金のあり方について議論している。

### ◆ 水道使用量の将来見通しについて

過去の人口推計等に基づく水道使用量の簡易シミュレーションを実施した。

### ◆ 水道事業における料金体系の概念について

水道料金体系における「二部料金制」「従量料金制」「ブロック料金制」など、様々な料金体系について議論している。

### ◆ 地下水対策について

給水区域における推定地下水使用量の推移を確認し、県営水道が実施している地下水からの転換による水道料金の減額制度について議論を行っている。

### ◆ 水道料金に付随するその他の制度について

企業誘致施策に係る加入金減額制度等について議論を行っている。

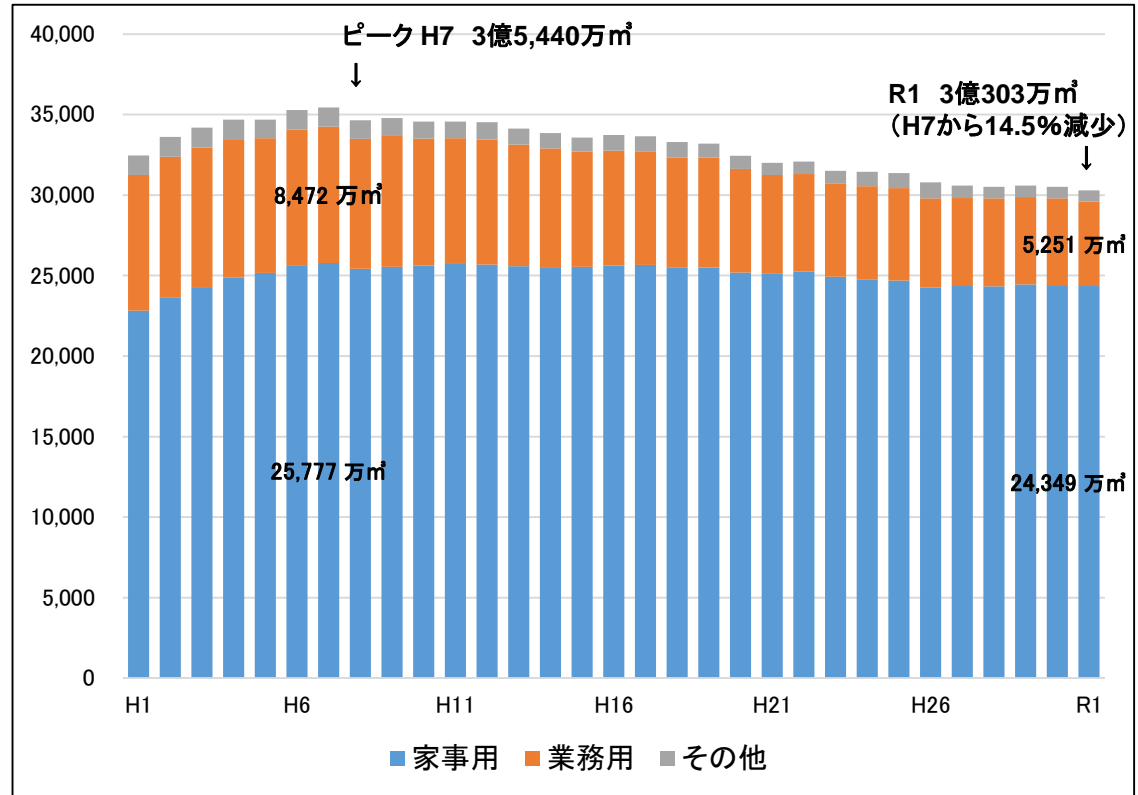
### 3 県営水道料金の現状について (水需要と料金収入の動向)

#### <有収水量>

水需要は減少傾向で推移しており、令和元年度は、水道料金収入の対象となる有収水量が、ピーク時の平成7年度と比較すると、全体で14.5%減少している。

県営水道では、家庭の生活用水である「家事用」と、店舗、工場、病院等で使用する「業務用」に大きく区分した料金体系を採用しており、用途ごとに見ると、業務用の減少率が大きくなっている。

有収水量の推移



|     | 平成7年度      | 令和元年度      | 減少量・減少率    |         |
|-----|------------|------------|------------|---------|
| 業務用 | 8,472万m³   | 5,251万m³   | △ 3,221万m³ | △ 38.0% |
| 家事用 | 2億5,777万m³ | 2億4,349万m³ | △ 1,428万m³ | △ 5.5%  |
| その他 | 1,191万m³   | 703万m³     | △ 488万m³   | △ 41.0% |
| 合計  | 3億5,440万m³ | 3億303万m³   | △ 5,137万m³ | △ 14.5% |

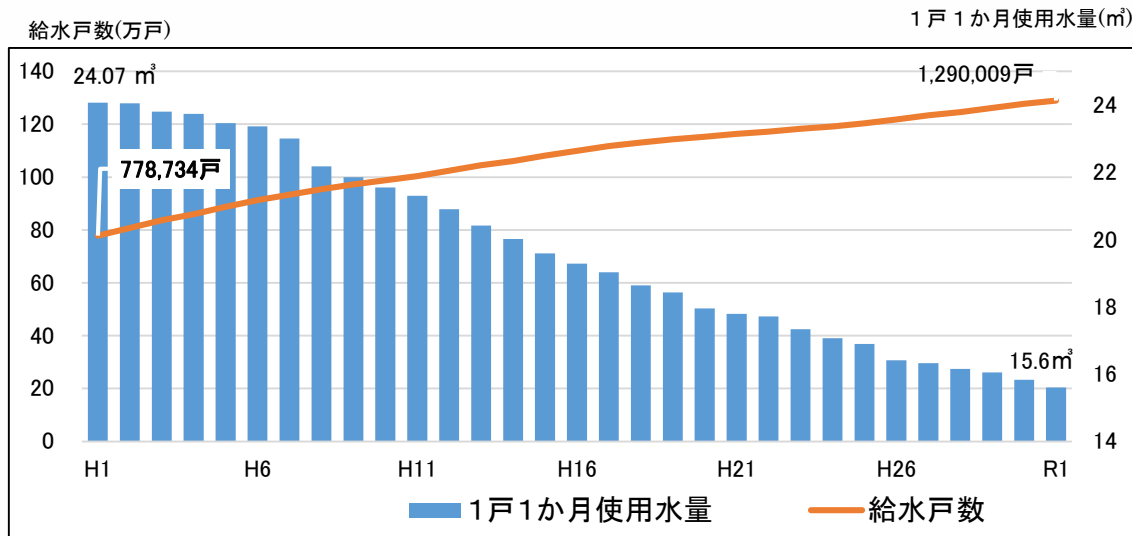
# 4 県営水道料金の現状について (水需要と料金収入の動向)

## <家事用の動向>

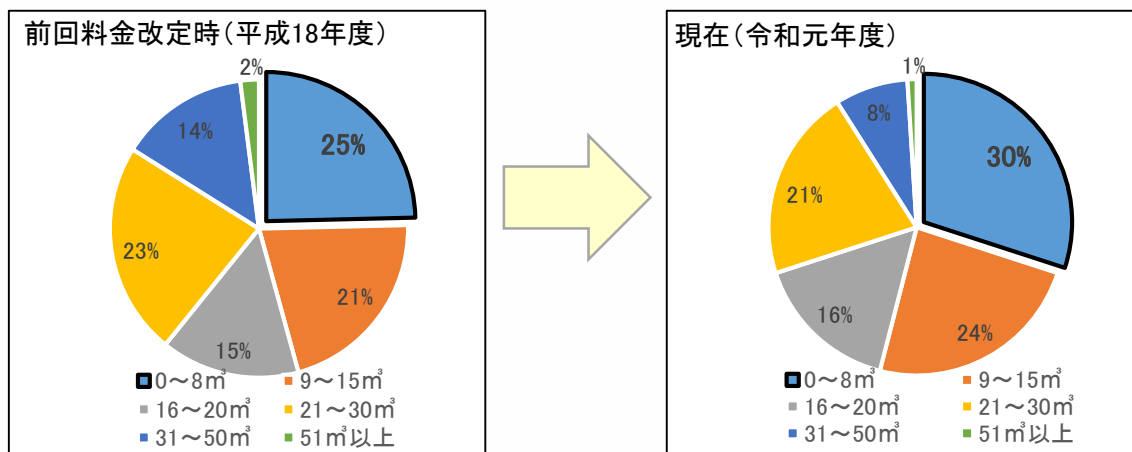
給水戸数は増加を続けているものの、世帯を構成する人数が減少していることや、ライフスタイルの変化等により、**1戸当たりの使用水量が減少している**ため、全体の有収水量は微減傾向で推移している。

各戸の使用水量では、1か月31m<sup>3</sup>以上使用する家庭が減少する一方、**1か月8m<sup>3</sup>以内の家庭の割合が増加している。**

## 家事用 1戸1か月使用水量と給水戸数の推移



## 使用水量別の戸数割合



# 5 県営水道料金の現状について (水需要と料金収入の動向)

## < 業務用の給水戸数 >

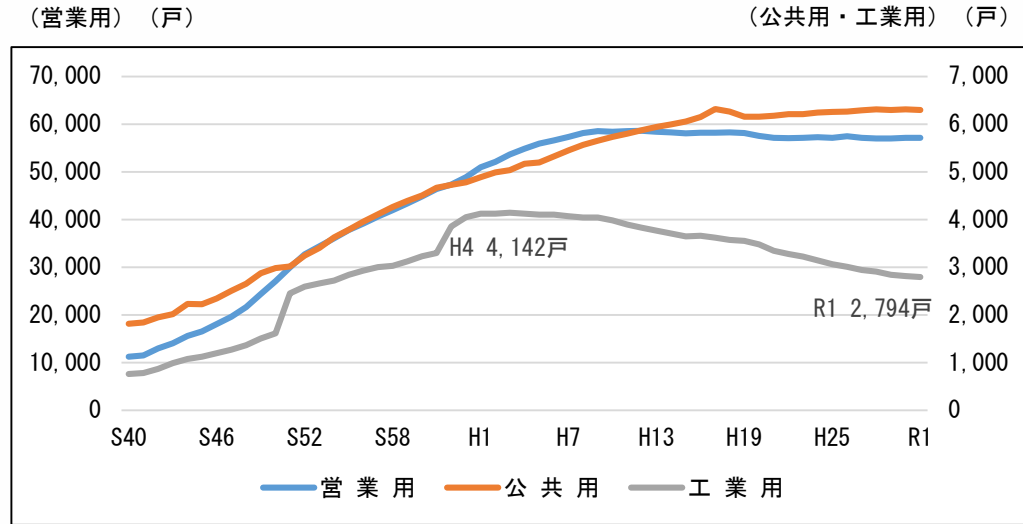
- ・ 営業用 (店舗・事務所等)
- ・ 公共用 (官公庁や公立学校等)
- ・ 工業用 (製造業等) に細分化すると、

「営業用」と「公共用」は増加から横ばいに転じているのに対し、**「工業用」は平成4年度をピークに減少を続け、令和元年度はピーク時から32.5%減少している。**

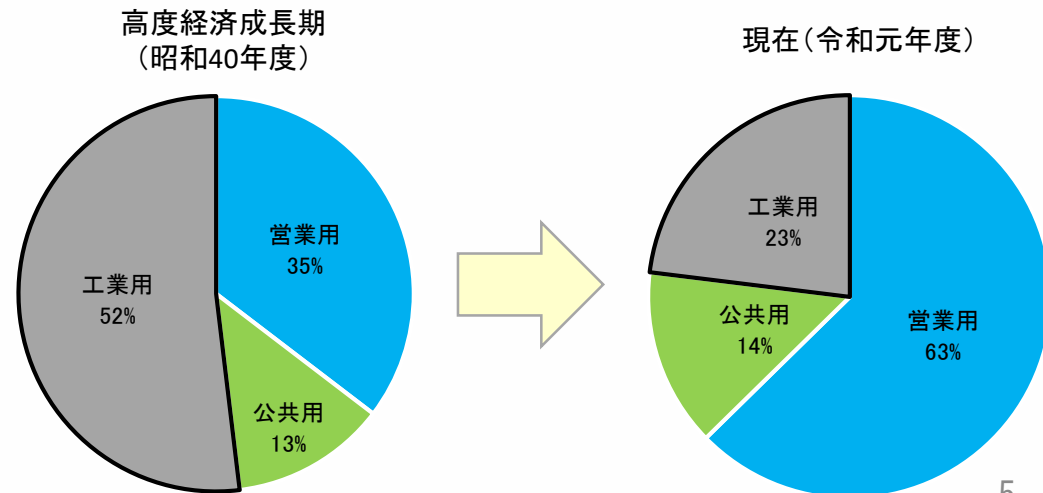
## < 業務用の有収水量の構成割合 >

高度経済成長期 (昭和40年度) と現在 (令和元年度) を比較すると、**「工業用」の割合が52%から23%に大きく減少している。**

## 営業用、公共用、工業用の給水戸数の推移



## 業務用の有収水量の構成割合

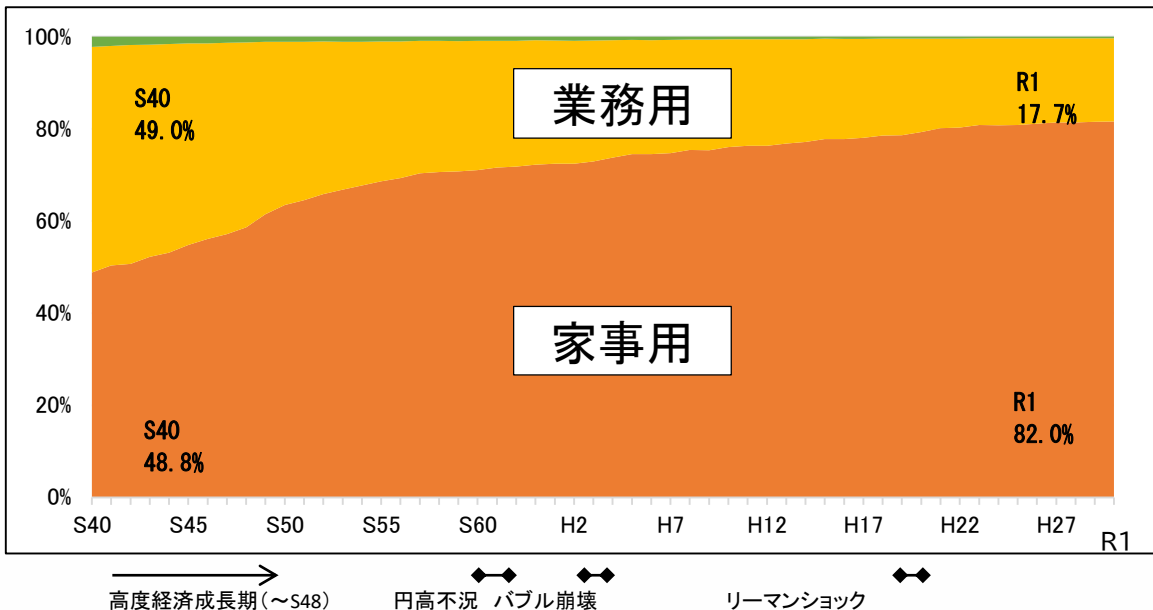


# 6 県営水道料金の現状について (水需要と料金収入の動向)

## < 有収水量の構成 >

昭和40年には約5割を占めていた「**業務用**」が、令和元年度には**2割以下まで減少**し、「**家事用**」が8割以上を占める状況となっている。

有収水量の用途別構成比の推移



【水道普及率の推移】

| 年度  | S40   | S50   | S60   | H7    | H17   | H27   | R1    |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 普及率 | 84.12 | 98.68 | 99.19 | 99.57 | 99.69 | 99.78 | 99.81 |

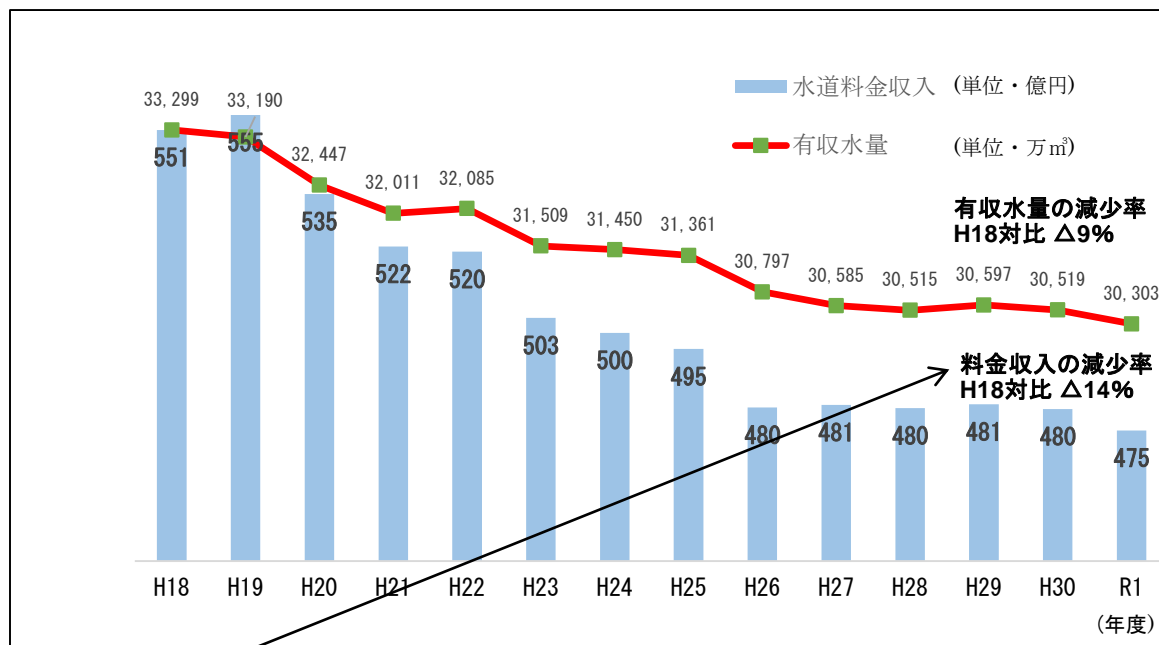
# 7 県営水道料金の現状について (水需要と料金収入の動向)

## <水道料金収入>

直近の料金改定があった平成18年度以降、有収水量と同様に減少傾向で推移している。

平成27年度から30年度までは減免制度の段階的見直し（生活保護受給世帯の減免廃止等）に伴う増収もあって減少傾向に一定の落ち着きがみられるが、令和元年度の水道料金収入は、平成18年度と比較すると14%減少している。

## 有収水量と水道料金収入（税抜）の推移



県営水道では、使用水量が多いほど水道料金が高くなる逓増制を採用している。

そのため、**有収水量の減少率 ( $\Delta 9\%$ ) 以上に料金収入が減少 ( $\Delta 14\%$ ) している。**



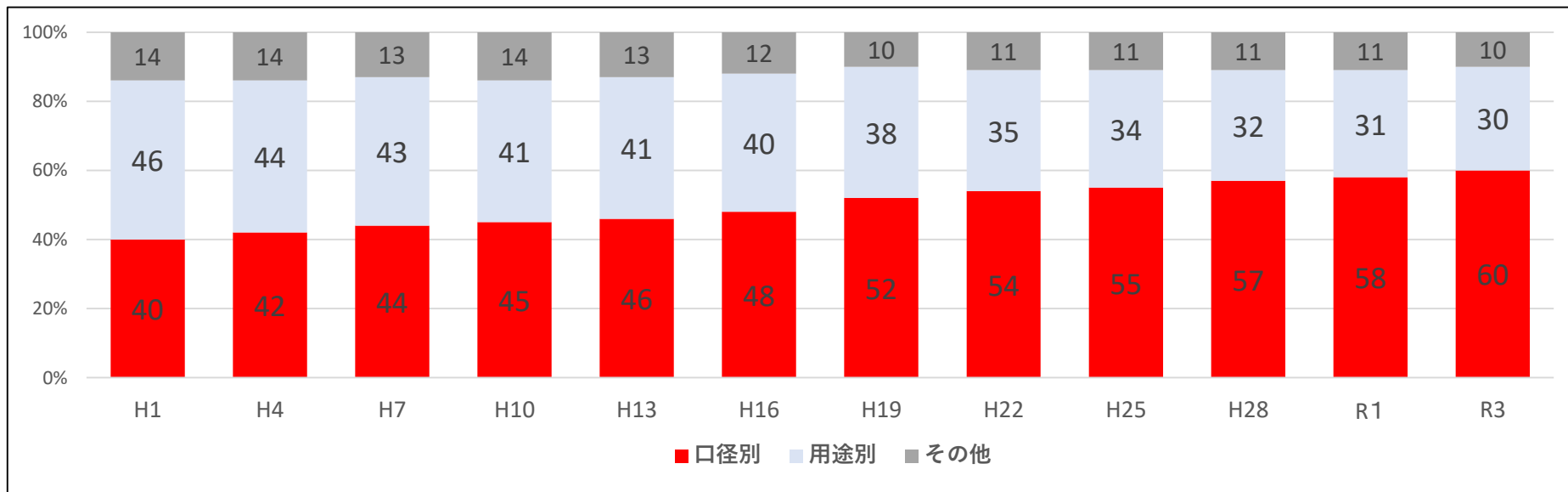
# 8 県営水道料金の現状について (全国の料金体系)

令和3年度時点で、**全国の約6割の事業者が口径別料金体系を採用している。**  
平成元年度では用途別料金体系が半数程度となっていたが、平成7年度に口径別料金体系の割合が上回り、現在では全体の3割程度となっている。

## 全国水道事業者の料金体系別の状況（令和3年度）

| 料金体系 | 口径別   | 用途別   | その他   | 合計    |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 事業者数 | 752   | 380   | 129   | 1,261 |
| 採用割合 | 59.6% | 30.1% | 10.2% | 100%  |

## 料金体系別割合の推移



# 9 県営水道料金の現状について (基本水量)

県内水道事業者では横浜市が令和3年度に基本水量を0m<sup>3</sup>としたのみとなっている。

**全国の大都市比較では基本水量0m<sup>3</sup>が多い状況となっている。**

## 県内水道事業者の状況

| 0m <sup>3</sup> | 8m <sup>3</sup>                           | 10m <sup>3</sup>                         |                                  |
|-----------------|---|--|----------------------------------|
| 横浜市             | 神奈川県水<br>川崎市<br>秦野市<br>座間市<br>小田原市<br>大井町 | 横須賀市<br>三浦市<br>南足柄市<br>愛川町<br>中井町<br>山北町 | 箱根町<br>湯河原町<br>松田町<br>開成町<br>真鶴町 |
| 1事業者            | 6事業者                                      | 11事業者                                    |                                  |

※ 全国18政令市及び東京都・千葉県・神奈川県  
の21水道事業者を対象として比較した。  
(給水人数が70万人以上の水道事業者)

## 大都市水道事業者の状況

| 0m <sup>3</sup>                               |   | 5m <sup>3</sup> | 6m <sup>3</sup> | 8m <sup>3</sup>       | 10m <sup>3</sup> |
|---|---|-----------------|-----------------|-----------------------|------------------|
| 仙台市<br>千葉県水<br>新潟市<br>静岡市<br>浜松市<br>大阪市<br>堺市 | 岡山市<br>広島市<br>北九州市<br>福岡市<br>熊本市<br>横浜市 | 東京都<br>京都市      | 名古屋市            | さいたま市<br>神奈川県水<br>川崎市 | 札幌市<br>神戸市       |
| 13事業者   |   | 2事業者            | 1事業者            | 3事業者                  | 2事業者             |

# 10 県営水道料金の現状について (各事業体の逓増度)

## 県内水道事業者及び大都市との逓増度（家事用または20mm）比較

### （県内事業者の比較）

|       | 逓増度（ ） | 内は順位 |
|-------|--------|------|
| 川崎市   | 5.39   | (1)  |
| 座間市   | 3.96   | (2)  |
| 横浜市   | 3.77   | (3)  |
| 横須賀市  | 3.66   | (4)  |
| 三浦市   | 3.41   | (5)  |
| 神奈川県水 | 3.31   | (6)  |
| 秦野市   | 2.88   | (7)  |
| 南足柄市  | 2.86   | (8)  |
| 愛川町   | 2.41   | (9)  |
| 箱根町   | 2.14   | (10) |
| 中井町   | 2.08   | (11) |
| 小田原市  | 2.00   | (12) |
| 真鶴町   | 1.95   | (13) |
| 大井町   | 1.83   | (14) |
| 開成町   | 1.64   | (15) |
| 山北町   | 1.46   | (16) |
| 湯河原町  | 1.36   | (17) |
| 松田町   | 1.30   | (18) |
| 平均    | 2.63   |      |

※ 1か月8立方メートル使用時の1立方メートルあたり単価で  
従量料金最高単価を除いて算出

### （大都市の比較） 令和4年4月1日時点

|       | 逓増度（ ） | 内は順位 |
|-------|--------|------|
| 川崎市   | 5.39   | (1)  |
| 横浜市   | 3.77   | (2)  |
| 神奈川県水 | 3.31   | (3)  |
| 大阪市   | 3.08   | (4)  |
| 札幌市   | 2.84   | (5)  |
| 神戸市   | 2.84   | (5)  |
| 堺市    | 2.81   | (7)  |
| 京都市   | 2.75   | (8)  |
| 千葉県水  | 2.62   | (9)  |
| 東京都   | 2.61   | (10) |
| 北九州市  | 2.53   | (11) |
| 名古屋市  | 2.33   | (12) |
| さいたま市 | 2.30   | (13) |
| 広島市   | 2.27   | (14) |
| 福岡市   | 2.11   | (15) |
| 浜松市   | 1.67   | (16) |
| 静岡市   | 1.32   | (17) |
| 仙台市   | 1.31   | (18) |
| 熊本市   | 1.29   | (19) |
| 岡山市   | 1.24   | (20) |
| 新潟市   | 0.49   | (21) |
| 平均    | 2.42   |      |

※千葉県及び神奈川県は県営水道のため、  
それぞれ「県水」と表記している

# 11 水道使用量の将来見通しについて

## 推計結果の概要

|   |       | 選定                        | 2016<br>(H28)    | 2036<br>(R18) | 2051<br>(R33) | 減少率<br>H28-R33 |
|---|-------|---------------------------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| 上段<br>生活用原単位<br>(L/日・人)<br>下段<br>生活用水量<br>(m <sup>3</sup> /日) | 高位    | 時系列傾向分析 (修正べき曲線)          | 237.4<br>665,189 | 229.9         | 227           | 95.6%          |
|   |       |                           |                  | 628,378       | 583,068       | 87.7%          |
|   | 低位    | 時系列傾向分析 (逆修正指数曲線)         |                  | 211           | 202.5         | 85.3%          |
|   |       |                           |                  | 576,719       | 520,138       | 78.2%          |
|   | 中位    | 高位・低位の平均                  |                  | 220.5         | 214.8         | 90.5%          |
|   |       |                           |                  | 602,685       | 551,731       | 82.9%          |
| 給水人口 (人)  | ケース共通 |                           | 2,802,503        | 2,733,265     | 2,568,581     | 91.7%          |
| 業務営業用水量<br>(m <sup>3</sup> /日)                                | 高位    | 時系列傾向分析 (逆ロジスティック曲線)      | 111,226          | 109,002       | 109,001       | 98.0%          |
|   | 低位    | 時系列傾向分析 (年平均増減率)          |                  | 76,955        | 58,380        | 52.5%          |
|   | 中位    | 高位・低位の平均                  |                  | 92,979        | 83,691        | 75.2%          |
| 工場用水量<br>(m <sup>3</sup> /日)                                  | 高位    | 時系列傾向分析 (逆ロジスティック曲線、実績8年) | 34,070           | 32,707        | 32,707        | 96.0%          |
|   | 低位    | 時系列傾向分析年 (平均増減率、実績8年)     |                  | 20,977        | 14,581        | 42.8%          |
|   | 中位    | 高位・低位の平均                  |                  | 26,842        | 23,644        | 69.4%          |

※神奈川県グランドデザインを基に算定

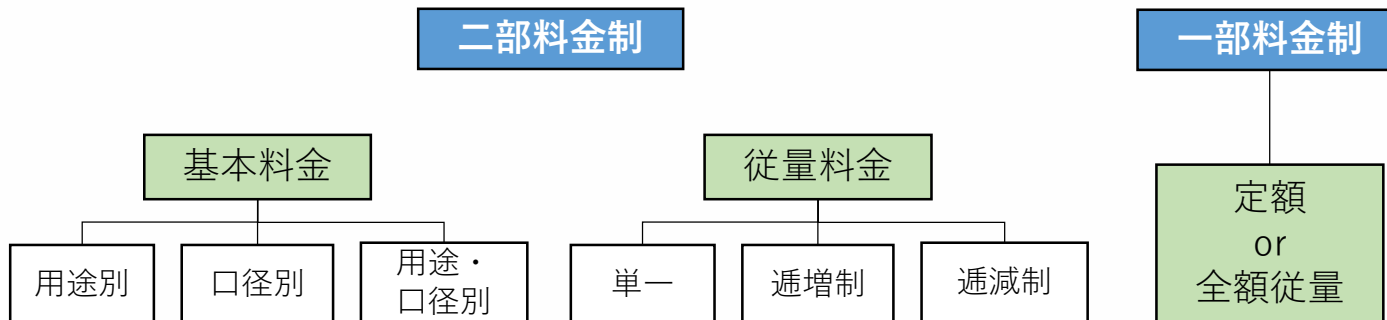
# 12 料金体系の概念

県営水道の現在の料金体系 → 「二部料金制」 「用途別」 「逓増制」

## 【県営水道の料金体系】

| 用途区分 | 基本水量 | 基本料金 | 二部料金制  |         |         |         |          |           |             |            |       |
|------|------|------|--------|---------|---------|---------|----------|-----------|-------------|------------|-------|
|      |      |      | 従量料金   |         |         |         |          |           |             |            |       |
|      |      |      | 9~15m³ | 16~20m³ | 21~30m³ | 31~50m³ | 51~100m³ | 101~300m³ | 301~1,000m³ | 1,001~1万m³ | 1万m³超 |
| 家事用  | 8m³  | 710円 | 128円   | 135円    | 172円    | 237円    | 294円     |           |             |            |       |
| 業務用  |      |      | 201円   |         |         | 221円    | 280円     | 337円      | 394円        | 436円       |       |
| 浴場用  |      |      | 57円    |         |         |         |          |           |             |            | 逓増制   |

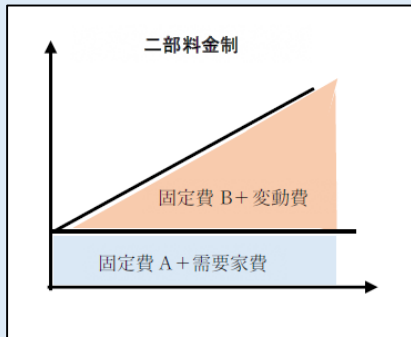
## 【料金体系の類型】



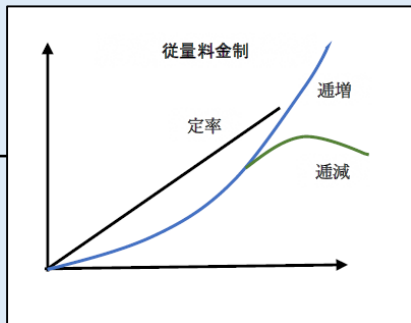
令和3年4月1日現在、1,313水道事業者のうち適用0件

# 13 料金体系の概念

## 二部料金制

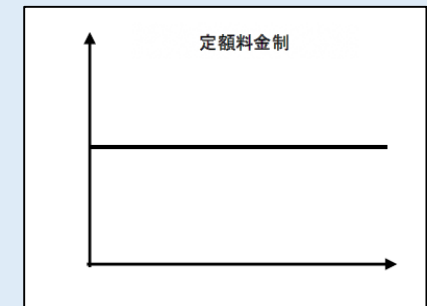
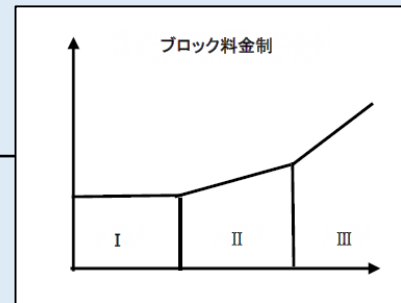
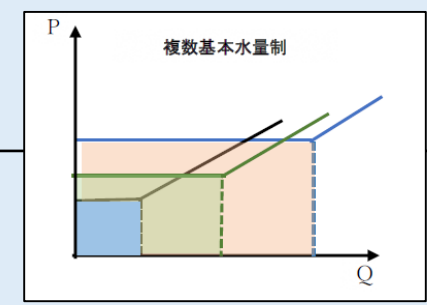
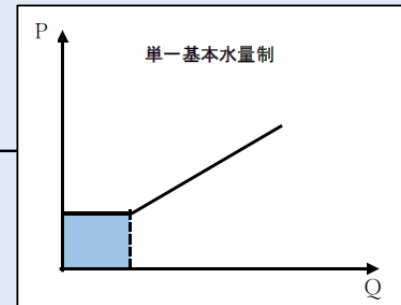


## 一部料金制



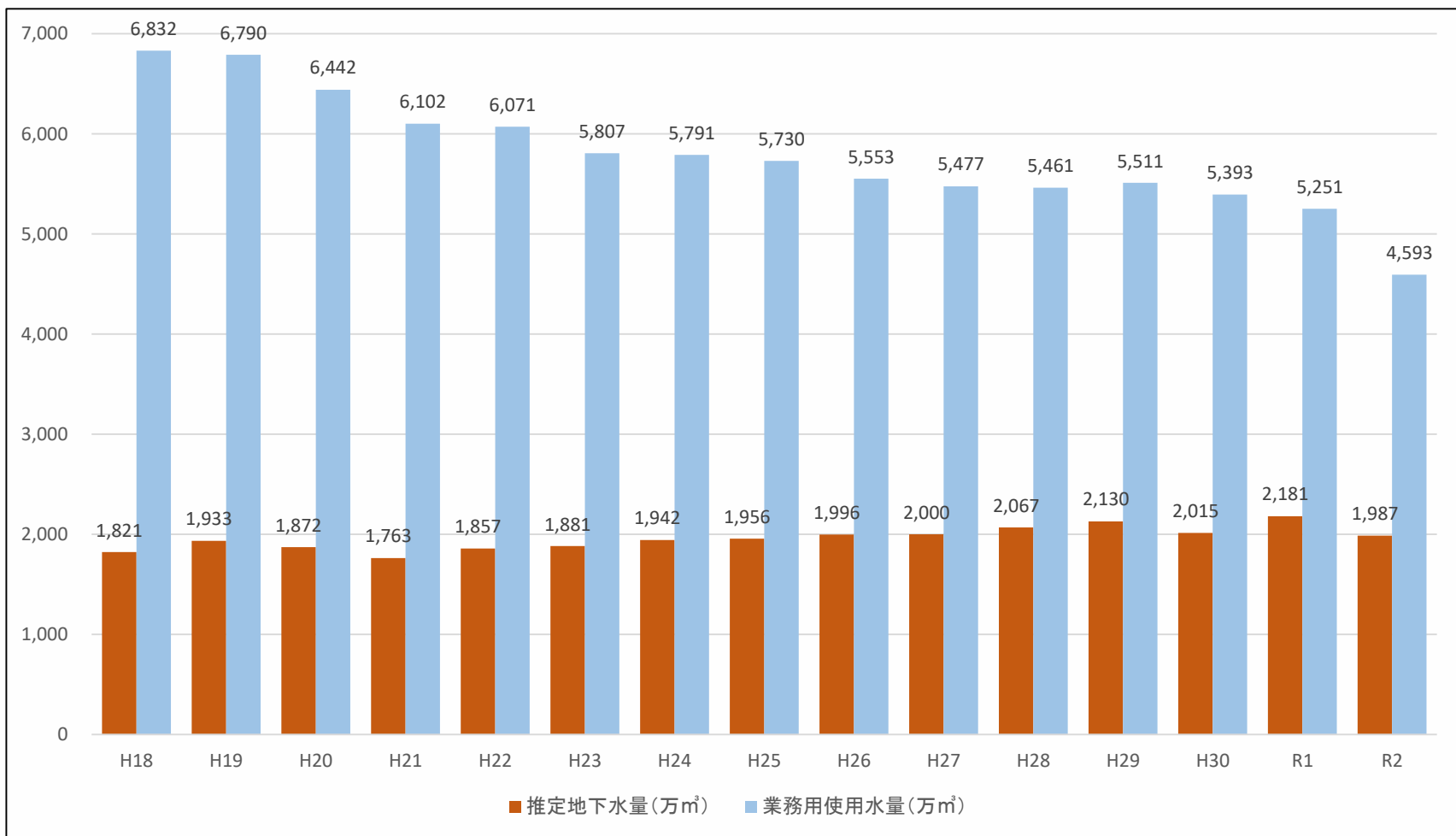
## 用途別

## 口径別



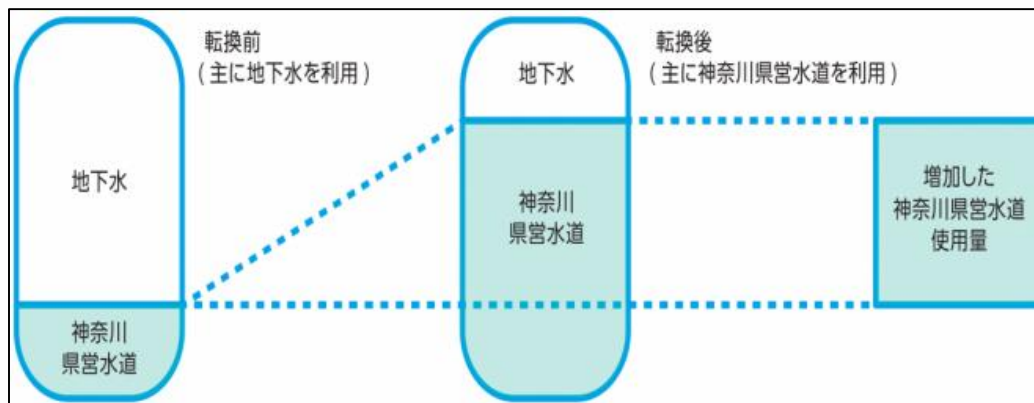
# 14 地下水対策について（地下水使用量の推移）

業務用の使用水量は企業の節水等により、過去15年で30%以上減少する中、地下水使用量は横ばいとなっている。



# 15 地下水からの転換による水道料金の減額制度

地下水の利用から神奈川県営水道の利用に転換し、転換前と同じ月で比較して、転換後の水道使用量が1,000 m<sup>3</sup>以上増加した場合に、**増加した水道使用量の水道料金の40%を減額**する制度



## 【減額の適用実績】

(単位：円)

|       |     | H23        | H24        | H25        | H26         | H27        |
|-------|-----|------------|------------|------------|-------------|------------|
| 減額対象  |     | 1 者        | 2 者        | 3 者        | 4 者         | 4 者        |
| 増収額   | A   | 30,813,145 | 26,789,627 | 89,984,272 | 136,120,500 | 33,301,421 |
| 減額実績  | B   | 20,055,609 | 16,644,478 | 39,799,060 | 55,947,813  | 17,255,930 |
| 実質効果額 | A-B | 10,757,536 | 10,145,149 | 50,185,212 | 80,172,687  | 16,045,491 |

|       |     | H28        | H29        | H30         | R1          | R2          | 合計          |
|-------|-----|------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 減額対象  |     | 5 者        | 5 者        | 8 者         | 8 者         | 8 者         |             |
| 増収額   | A   | 43,582,555 | 58,012,561 | 111,029,199 | 156,556,651 | 107,123,691 | 793,313,622 |
| 減額実績  | B   | 24,363,547 | 32,217,978 | 54,375,957  | 71,630,225  | 58,298,373  | 390,588,970 |
| 実質効果額 | A-B | 19,219,008 | 25,794,583 | 56,653,242  | 84,926,426  | 48,825,318  | 402,724,652 |



# 16 企業誘致施策に係る加入金減額制度

神奈川県企業立地支援事業（セレクト神奈川NEXT、セレクト神奈川100）の認定を受けた者が、新規の水道利用申し込みや給水装置の口径を大きくする場合、申請により、水道利用加入金の額を50%減額する



## セレクト神奈川NEXT認定要件（概要）

|       |   |
|-------|---|
| 対象施設  | 工場、研究所、宿泊施設（旅館、ホテル）、本社機能その他事業所の機能を有する施設   |
| 投資額   | 大企業：20億円以上 中小企業：5,000万円以上   |
| 常用雇用数 | 大企業：50人以上 中小企業：10人以上  |
| 対象産業  | 未病関連産業、ロボット関連産業、エネルギー関連産業、観光関連産業、先端素材関連産業、先端医療関連産業、IT/エレクトロニクス関連産業、輸送用機械器具関連産業、新型コロナウイルス感染症の感染防止に資する医療・衛生製品関連産業、地域振興型産業 |
| 対象業種  | 「製造業」「電気業（発電所に限る）」「情報通信業」「卸売業（ファブレス企業に限る）」「小売業（デューティーフリーショップに限る）」「学術研究、専門・技術サービス業」「宿泊業（旅館、ホテルに限る）」「娯楽業（テーマパークに限る）」      |

## セレクト神奈川NEXT支援事業の概要

|             |  |
|-------------|--|
| 企業立地促進補助金   | 土地・建物・設備への投資額に一定割合を乗じた金額を上限額の範囲内で補助<br>補助金額：投資額の3%(大企業)、6%(中小企業)、上限5億円 |
| 不動産取得税の軽減   | 不動産取得税の2分の1を軽減   |
| 企業立地促進融資    | 県が金融機関に対して補助することで、金融機関からの融資を通常よりも低利で受けられる                              |
| 企業誘致促進賃料補助金 | 工場、研究所、事務所などの事業所に対して、賃料に一定割合を乗じた金額を補助                                  |

## 17 今後の検討について

水道料金体系の検討にあたっては、項目が多岐に渡り、方向性を決めるにも、県営水道が今後示す料金算定期間の財政投資計画に基づく収支見通しを受け、それぞれの利用者への影響を見極めながら総合的に判断する必要がある。

水道料金部会において、引き続き専門的技術的な視点から検討を実施し、県営水道にふさわしい水道料金のあり方について審議会に報告する。